

## 平成 26 年度（2014 年度）第 2 回運営委員会記録

豊中市教育センター

日 時 平成 27 年（2015 年）2 月 17 日（火）  
会 場 豊中市教育センター 研修室  
出席者 寺本委員、酒井委員、高橋委員、岡井委員、山崎委員、安川委員、冬木委員  
川崎委員、大野委員、井坂委員、越桐委員、多田委員、柿本委員  
欠席者 藤本委員、渡邊委員  
事務局 林所長、野村チーム長、田中チーム長、高畠チーム長（記録：大堂・正岡）  
傍聴者 0 名

### 1. 開会の挨拶（委員長）

第 2 回の運営委員会では、各チームからの報告となっています。たくさんのご意見をいただき、教育センターの活動がより充実・発展できますよう協力をお願いします。

### 2. 案件

#### （1）本年度の事業中間報告（事務局）

##### ○教育計画チーム

- ・豊中市研究協力員制度（教科・領域にかかる研究）
- ・確かな学び推進事業（京都市・秋田県への研究視察）
- ・教職員の研修について
- ・「ことばフレンズ豊中」言語力向上推進事業について
- ・小学校 41 校、中学校 1 校への大型モニターの設置
- ・60 周年式典、理科展の運営、表彰、南部陽一郎賞について
- ・未来の科学者育成推進事業について
- ・サイエンスフェスティバルについて

##### ○教育相談チーム

- ・教育相談、サタデー相談について
- ・教育相談窓口における相談状況
- ・学校への支援（学生カウンセラー派遣・教育相談員派遣・サポート会議）
- ・研修業務について

##### ○支援教育チーム

- ・学級設置準備について
- ・医療的ケアについて
- ・障害児教育、支援教育の研修について
- ・巡回相談について

<質疑>

- ・豊中マチカネ先生塾の対象者数や応募者数について教えてください。  
→豊中市の教員を目指す大学生を対象に30名を募集しています。今年度は32名の応募があり、全員受講可としました。今後、応募者が多数になる場合には書類による選考を考えています。
  
- ・豊中市は、支援教育を含めたインクルーシブ環境を先進的に進めてきたという現状があるなか、今後に向けての方向性を示す必要があるように感じます。ユニバーサルデザインの授業づくりの視点を取り入れるための研修や障害者理解の研修等の充実を図るとともに、地域への発信も行っていくことが期待されます。  
→短期的には、障害者理解教育や啓発等を充実させることが必要だと考えています。長期的には、豊中で育った子どもが大人となり、次代の子どもを育むといった、共生社会を目指すための素地はできていると感じています。今後も、豊中の教育が世代を重ねることで循環し発展していくことを期待しています。
  
- ・世代交代が進み、経験の浅い先生方の育成が求められているなか、経験の浅い先生同士の交流も重要となります。豊中市では、どのような課題意識を持ち、どのような手立てを考えていますか。  
→本年度の10年経験者・初任者研修の「授業研究に係る研修」では、10年経験者の能力に頼るところの大きい内容となりましたが、10年経験者が率先して演習を進め、初任者が授業づくりの手法を学ぶことができました。また、10年経験者にとっては、教える立場としての自分を振り返る機会となりました。  
また、校務多忙のため市実施の研修への参加が難しい先生が多くいます。そこで、「ことばフレンズ豊中」では、教育センターから指導主事が学校の校内研修の場に出向き、研究推進や授業検討をする際に指導助言を行う等、学校を支援する取組みを進めています。
  
- ・10年目より前の段階で、自分自身のことを振り返る機会を作ることも効果があるように思います。それが何年目なのかを検討することも求められでしょう。

(2) 次年度にむけて(事務局)

- 授業イノベーションのためのICT機器の整備
  - ・楽しくわかりやすい授業の実現のために、効果的なICT機器の活用研修とソフトの開発
- 言語力向上推進事業
  - ・校内研究支援
  - ・研究協力員支援
  - ・子どもが主体的に学ぶための授業づくりに関わる研修の充実
- 支援体制の充実
  - ・子ども理解を進めるための研修の充実
  - ・状況理解と具体的な支援
  - ・学校と各機関や部署との連携強化

<質疑>

- ・学校現場にいと、以前と比べて子どもたちの生活背景は大変厳しくなっていることを実感しています。例えば、学級費や宿泊行事の積立金などの滞納が続く子どもが多数います。また、子どもが以前と変わ

ってきていると感じています。その原因を分析し、何ができるのかを考えていくことの必要性を感じています。学校だけで解決するのは難しいので、教育センターからの支援を期待しています。

- ・生活の格差が大きくなっていると感じています。生活が苦しくなる中、小学校入学までの子どもと保護者の関わりにも大きな差が生じています。子どもと保護者がゆったりと関わる場として“読み聞かせ”が重要です。豊中は読書活動日本一を掲げており、読書振興課を中心に読書活動に力を入れています。教育センターでは、市民向けにサイエンスフェスティバルなど科学的な行事を行っていますが、今後は読書活動（読み聞かせ）など幼児教育についても取り組んでほしい。
- ・子どもの発達障害について、保護者が先生と話せる場が必要だと感じています。また、小学校に入学するまでの私立の幼稚園・保育所の環境に違いがあります。幼稚園と協働して小学校入学までのケアに取り組んでほしい。
  - 今後、豊中市内に26の認定こども園が設置されることにもなって、研修が大変重要であると考えています。これまでも支援教育や教育相談にかかる研修は幼稚園の先生に案内しています。今後も意図的な研修、子どもの発達段階に応じた研修を企画する必要があると考えています。また、保育園所・こども園との連携に関する研修等の充実を図っていきます。

### (3) その他

特にありません。

### <質疑>

- ・このところ教育センターの研修内容が非常に充実している印象があります。国語の連続講座や言語力向上に関わる研修等、参加したいと思う研修が多くなっています。今後も研修内容のより一層の充実を期待しています。

### (4) 閉会のあいさつ（副委員長）

- ・厳しい社会状況の中、あらゆる年齢層で周囲に気づかれることなく孤立している人がいます。学校はつながりをつくる場として社会の中で重要な位置を占めています。インターネットが普及して便利な社会になっていますが、ネット上だけで社会とつながっている若者が大人になっていく現状もあります。さまざまな困難な事案を通して感じることは、子どもや保護者にとって教育センターの取組みがセーフティネットとして機能していくことも求められているということです。今後も、教育センターの取組みがより充実していくことを願っています。